

特集

防災

みんなが担い手

日本各地で起こっている自然災害。江別市も例外ではなく、これまでに石狩川の氾濫や大雨による浸水被害などに悩まされてきました。

また、直下型地震は日本全国でいつ起きてもおかしくありません。

市では、災害に対応するため、行政と市民、関係機関が協力し合って防災活動に取り組んでいます。その中では、それぞれの立場から災害に立ち向かおうと、さまざまな人が活躍しています。

今回はその様子を紹介し、防災への向き合い方を考えます。



2



3



4

1～4 写真 _ 江別市総合防災訓練 (H28.10.8 江陽中学校) 1_ 住民と江陽中の生徒で協力し合いながら、救命講習を受けているところ。2_ 炊き出しで温めた非常食を手渡す生徒たち。3_ 住民、生徒、消防団などが協力して家屋から人を救助する様子。4_ 避難所運営本部で話し合う住民。

地域のつながりが力に

市内各地域の防災訓練は、その多くが自治会を中心に
行われています。今回は、積極的に防災に取り組む見晴
台自治会と野幌若葉自治会を紹介します。

自治会独自で取り組む

4千人以上の会員がいる見
晴台自治会は、自治会単体で
自主防災組織を結成し、防災
に取り組む自治会の一つです。
過去の防災訓練では、災害
時に避難所となる対雁小学校
の体育館に泊まり、炊き出し
や水汲みを行うなどさまざま

な内容を盛り込んできました。

また、避難に手助けが必要
な人を支援する制度（避難行動
要支援者避難支援制度*）も取
り入れ、同制度の個別計画の
作成や、日頃からの見守りに
も活用し、自治会の防災活動
のモデルにもなっています。

同自治会で防災の意識が高
まったきっかけは東日本大震



対雁小学校で行われた見晴台自治会避難所運営訓練。1泊2日の
日程で行われ、夜には炊き出しのお米や豚汁などが配られました。

*「避難行動要支援者避難支援制度」／障がいをお持ちの方
や単身でお住まいの高齢の方など、災害時自力での避難が不
安な方を支援する制度。制度へ事前登録申し込みをすると「要
支援者名簿」に登録され、自治会など支援してくれる団体に
事前配布されて日頃の見守りや災害時に活用されます。



左から、見晴台自治会
会長 山岸 勝明さん（67）
副会長 佐藤 一雄さん（75）
総務部副部長
仲西 正彰さん（65）

自ら考えて助け合う

「実際に歩くと学校まで遠
く感じる
ね。道路が
寸断されて
いたらどう
と、今後の課題を話します。」

災でした。「電話回線の混雑
を体験し、災害時の情報伝達
に問題があると、初動対応が
遅れると痛感しました。その
ため、災害時の役割分担をあ
らかじめ決めておく必要性を
感じました」と副会長の佐藤
一雄さんは振り返ります。

その後、「自主防災に関する
規程」を作り、災害時の役割
分担を明文化。防災会議を設
置し、日頃から話し合える環
境づくりを進めました。総務
部副部長の仲西正彰さんは「ま
ず、自分の身を守り、地域のつ
ながりで災害を乗り越えるこ
とが大切」と話す一方、山岸勝
明会長は「役員の高齢化など、
地域だけでは支えきれない面
もあるので、行政など各機関
と連携して防災力を高めたい」

しようか」避難訓練中、住民
同士が言葉を交わします。
今年9月、野幌若葉自治会
は初めて野幌若葉小学校と連
携して防災訓練を実施。子ど
もから高齢者まで約120人
が参加し、防災意識を高めた
。今回の訓練のきっかけ
は役員内から「実際に避難所
になる小学校を使いたい」と
いう声が上がったこと。生活
安全部長の松原元廣さんが、
学校や行政と何度も話し合
い、実施にこぎつけました。



野幌若葉自治会
生活安全部長
松原 元廣さん（63）

が独自に防災に取り組んでい
ることを知り「自分たちに
合った防災体制作りをした
い」と感じました。
「災害対策を誰かに任せた
いのはみな同じです。でもい
ざというとき、それでは自分
の身は守れません」松原さん
は、今後自分たちの自治会に
合った防災マニュアル作りな
どに取り組む、災害時に自ら
考えて助け合える関係づくり
を進めたいと話します。



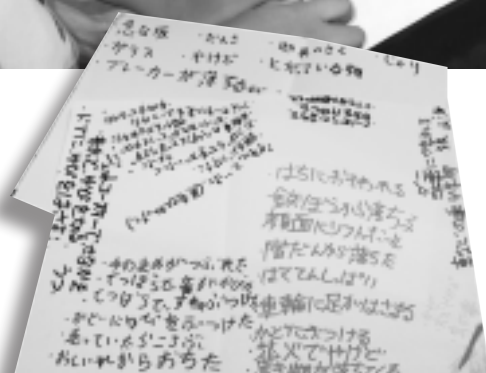
1_野幌若葉自治会の
防災訓練で、野幌若
葉小まで歩いて避難。
リヤカーを活用し、
子どもたちと一緒に
避難する市民。2_野
幌若葉小体育館で、
参加者が協力して訓
練を行う様子。





子どもたちも自ら考え 自分の身を守る

東日本大震災で、岩手県釜石市内の学校管理下にいた約3千人の小中学生が無事避難し、“釜石の奇跡”とよばれました。しかしそれは「自ら考え、身を守るために最善の策をとる」という防災教育のたまものだったといいます。江別でも、学校などを通して防災教育の考え方が少しずつ広がっています。



DIGの前に頭の準備体操。子どもたちは、「身近にある危険」について自由に書き込みました。

身近な危険を知り 備える

「授業中に大きな地震があつたら何が危険かな。先生が近くにいなかったらどうする？」

市危機対策室の佐藤圭介さんからの問いに、子どもたちは自分の考えを発表します。「窓ガラスが割れて刺さったら痛いな」「逃げるとき階段で転ぶかも」「先生がいなかったら…どうしよう」。

今年7月、市の行う防災の出前講座として大麻小学校で「学校DIG（ディグ）」が行われました。DIGとは災害図上訓練の略で、大きな災害が起きた場合を想定し、参加者全員で対応を考える訓練のこと。同小の子どもたちは、校内の地図に身近に潜む危険などを書き込みながら、地震が起きたときに学校がどうなっているかを具体的に考え、自分たちの身を守る方法を考えました。

「私自身も小学生の娘がいるので、子どもの防災は身に迫って考えさせられます」と佐藤さん。子どもたちの記憶に残すため、写真や動画を使って災害時に起こりうる危



市危機対策室
佐藤 圭介さん（39）

険を分かりやすく説明しました。地震で大きな棚が倒れる様子や100キロ近いコピー機が暴れる様子、また、学校内で、地震に備えるため本棚類の固定などを行っている様子などを紹介すると、子どもたちは興味津々でした。

今回のDIGに中心的に携わった同小の中川徹先生は子どもたちと一緒に防災を考える大切さを改めて感じたといいます。「今回の授業を受けた後、子どもたち同士で『ここが危険かもしれないね』など、自分たちの身の周りに潜む危険を意識できるようになっていました。意識しなければ気付かない身近な危険の芽を普段から考えておくことで、いざというとき大きな違いになると思います」。



大学の“知”を地域へ

市内に4つの大学があり、知識が豊富にあるのも江別市の特徴。防災に役立つ知識を、専門的な立場から地域に広めている北翔大学の2人の先生を紹介します。

みんなで取り組む大切さ

「大人数が暮らす避難所では、間仕切りがあるとストレスがかなり軽減されます」北翔大学大学院の千里^{ちのしまさかみ}政文教授は、段ボールの間仕切りを防災訓練などを通して広めています。

この間仕切りは、5枚の段ボールをテープで帯状につな

げて四角に囲い、およそ2畳分のスペースを作るもの。子どもでも簡単に作れ、互い違いに設置すると、倍の数の個室を作ることができます。

この間仕切りは、市内の各防災訓練で実際に作成し、災害時に活用するため、市内に備蓄されています。また、防災訓練で寄せられた意見をもとに、組み立て方などの改良

を進めているほか、腰かけたり、床の冷たさをしのいだりできる段ボールのいすやベッドづくりにも取り組んでいます。千里先生はこれらの取り組みを通して“みんなで取り組む大切さ”を伝えたいと強調します。

「失敗もしながら、みんなで協力して作り上げることこそが、防災につながります」。

正しい知識で災害に備える

「活断層による地震を必要以上に怖がることはありません。しかし自分の住む土地や環境の正しい知識を持ち、いつ災



段ボール間仕切りの作り方を説明する千里先生（左端）

害が起きても対応できるように準備することが大切です」。

地層に詳しい北翔大学の横山^{ひろやま}光准教授は、防災訓練や市民向け講座などを通して市内の地質や活断層などを分かりやすく説明しています。

江別市は、河川の氾濫でできた低い土地と、活断層でつくられた小高い丘陵地が特徴で、自然災害では特に水害や直下型地震の危険を想定する必要があります。

「大学の研究成果は、専門的で難しかったり、広く公開されていなかったりして、一般の人が知る機会が少ないのが現状です。足元の大地がどのようにしてできたのか、今後皆さんに分かりやすく伝えていきたい」と話します。



上／防災訓練で子どもたちに江別の活断層について模型で説明する横山先生。

市内活断層を回るバスツアー（北翔大学の公開講座）は一日で満員になる人気ぶり。



北翔大学
教育文化学部教育学科
横山 光 准教授 (43)

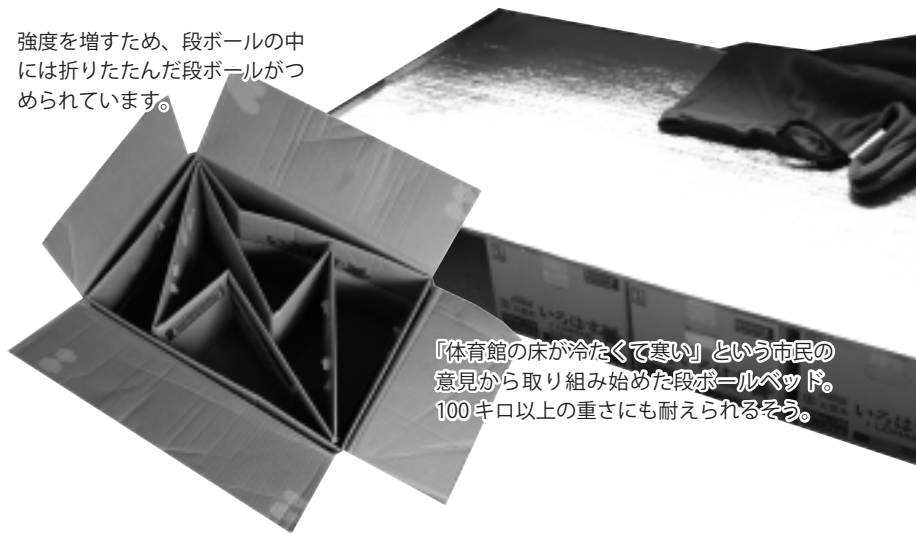


北翔大学大学院
生涯学習学研究科
千里 政文 教授 (49)



横山先生と千里先生の元で学ぶ大学生も、地域の防災訓練に参加しています。写真は避難所を確認しているところ。

強度を増すため、段ボールの中には折りたたんだ段ボールが詰められています。



『体育館の床が冷たくて寒い』という市民の意見から取り組み始めた段ボールベッド。100キロ以上の重さにも耐えられるそう。



「避難所めぐりウォーキング」
野幌公民館前を歩く参加者

身近なことから はじめよう

防災活動には、多くの人々が活動しています。しかし、災害が起きたら、私たち一人一人が、助け、助けられる「防災の担い手」でもあります。自分と大切な人の命を守るために、日頃からできる防災を始めてみませんか。

散歩やあいさつも防災の一步

今年6月、市の出前講座で市内の避難所を回る「避難所めぐりウォーキング」が行われました。近くに住んでいても、避難所の場所を知らない人も多く、避難のイメージができたところでした。これは簡単にできる防災の一例です。散歩や通勤などで「冬には雪で道路が狭くなることを想像しながら歩く」「子どもの通学路を歩いて、身近に潜む危険を探しながら歩く」なども防災につながります。

他にも非常食を食べてみる、家族で防災について話し合うなど、生活の中で取り組めることがたくさんあります。実は「あいさつ」も防災の一つで、阪神・淡路大震災

では、近所の人にあいさつを欠かさなかったことで、地域に存在を知られていたため、家が潰れても助けられたという事例もあったそうです。地域とのつながりを大切にする、災害への意識を高めるなど、まず身近にできることから防災を始めよう。

市は、避難場所などの防災情報をさまざまな手段で提供しています（左ページ）。

企画・編集／
危機対策室
広報広聴課

すぐに始められる災害対策

●非常持ち出し品の準備を！

災害時には、荷物をまとめる時間があるとは限りません。懐中電灯、笛などの非常持ち出し品をかばんなどにまとめておきましょう。また、割れたガラスなどから足を守るための靴を枕元に置くなどの備えが重要です。



●備蓄のローリングストック

日常的な食料（普段から食べているもの）を備蓄しておき、古いものから順に消費し、使った分だけ買い足す方法です。家族1人につき3日分（9食）以上の備蓄が目安。



防災あんしんマップの活用を

大麻・野幌・江別地区の防災あんしんマップを配布しています。地震の揺れやすさや、洪水時の避難先、非常持ち出し品や避難行動要支援者避難支援制度など防災に関わる情報を掲載しています。

市役所や市ホームページから入手できます。



市で進める 防災備蓄

江別第二小の
防災備蓄庫▶

江別市では、毛布1万枚、食料1万食を目標に防災備蓄を進めています。これは、阪神・淡路大震災時の避難率が約9%だったことから、江別市の人口約11万9,000人を掛けて算出したものです。

市内小中学校の耐震化工事に伴い、小中学校にも防災備蓄庫の整備を進めています。アルファ化米や備蓄用パンといった非常食に加え、毛布や間仕切り用段ボール、発電機やストーブといった非常用品が蓄えられます。

現在、緊急時の食料・毛布といった非常用品は江別市文書保存センター（中央町）に備蓄されており、江別第二小、江別太小、江別第一中、江別第一小にも備蓄庫が順次整備され、分散配置が進められています。





市の提供する防災情報

防災に関する問い合わせは 危機対策室 ☎ 381-1407

近くの避難所を確認！

避難所ガイド（今月号の広報えべつに同封）

市内全域の避難所ガイドマップ。一次的な避難場所と避難生活を送る避難所を区別し、避難場所は下記のとおり災害の種類ごとに指定されました。お近くの避難所などを確認しましょう。

・指定緊急避難場所

地震などの災害時、一時的に危険から逃れるための避難場所。洪水、地震、土砂災害など災害の種類ごとに指定緊急避難場所を指定しています。

・指定避難所

災害時に、一定期間避難生活を送る必要が生じたときに開設される、小中学校などの施設。

河川水位について

（今月号の広報えべつに同封）

市内河川の危険水位や、洪水時の避難基準、洪水時の避難場所のご案内。洪水時の避難所は、地震などの災害と異なるのでご注意ください。

ご注意ください！

避難の前にしっかり確認を！

避難所の開設は、災害の規模や被害範囲によって判断されるため、全ての避難所が一斉に開設されるわけではありません。避難前にテレビや市の防災情報提供サービスなどで開設されている避難所を確認しましょう。

いろいろな手段で防災情報を収集

防災情報提供サービス

事前に登録することで、市から避難情報や緊急のお知らせなどの情報を E メール・電話・ファクスで受け取れます。

▶ 受信先を携帯電話・パソコンなどのメールにする場合

① 右下の QR コードを読み込んだ先、または bousai.ebetsu-city@raidan.ktaiwork.jp に空メールを送信。

② 仮登録通知のメールから、指示に従い登録。

▶ 受信先を電話やファクスにする場合

申込書に記入してファクスまたは郵送で危機対策室（FAX 381-1070）まで提出。申込書は



市役所案内窓口または、市ホームページから入手できます。

市 HP・フェイスブック・ツイッター

市ホームページや SNS で防災情報を発信しています。

- 市ホームページの防災情報「江別市 防災」で検索。
- フェイスブックは「江別市防災情報 フェイスブック」で検索。
- ツイッターは「@ebetsu_bousai」で検索。

24 時間自動音声防災情報テレホンサービス

☎ 050-5533-8204

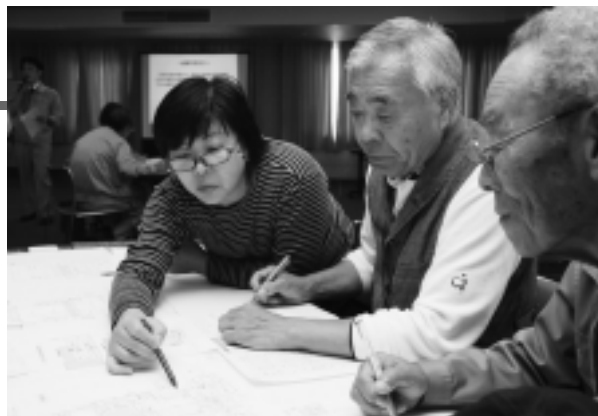
防災出前講座をご利用ください

市職員が直接出向き、分かりやすくお話しする出前講座を行っています。

- 内容
- 災害図上訓練（DIG）
 - 避難行動要支援者避難支援制度について
 - 避難所運営ゲーム（HUG*）など

申込 危機対策室
☎ 381-1407

*HUG とは…避難所の見取り図を使いながら、避難所の課題を施設内でどのように対処していくか各グループで議論しながら行う訓練のこと。「毛布と食料の保管場所」や「傷病者用の部屋」、「トイレの運用方法」など、さまざまな避難所での課題が示されます。



高砂町自治会と市民会館の連携で行った HUG の様子